



[本校] 〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1
tel. 025-239-3111 fax. 025-239-3690
[新潟中央キャンパス] 〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1169
tel. 025-227-7111 fax. 025-227-7117
http://www.nuis.ac.jp somu@nuis.ac.jp

平成29年 1月1日 発行

平山学長 新春あいさつ (2面)

『中長期計画』スタートしよう

国際理解講演会「変化するアジア経済」開催 (3面)

ロシア語スピーチコンテスト・6年連続の複数入賞 (4面)

陸上競技部男子400mリレー「北信越」で初優勝 (6面)

平成29年度一般入試日程の概要とポイント (8面)

編集部では表紙を飾る写真を募集しています! 投稿方法は nuischannel@nuis.ac.jp までお問い合わせください。

CONTENTS

(2・3面)

湧源・編集後記に代えて
チンパンジー・鮮度を「明るさ」で認識
伊村准教授ら研究発表

(4・5面)

理化学研究所と共同・ウェブツール開発
バンドン「国際通信会議」で講演
8大学が田上町で合同ゼミ
日本人間工学会で「優秀奨励賞」

教員の活動

(6・7面)

街歩きゲーム「ふるまちクエスト」
紅羽祭・模擬店、イベント昨年上回る
企業懇談会に276社・約400人

フリーバーバー「FINDER」誕生
福祉・介護・健康フェア

(8面)

金時鐘文化講演会
卒業生の便り



NUISホームページ
<https://www.nuis.ac.jp>
(スマートフォン対応)



Facebookページ
<https://www.facebook.com/nuis.face>



LINE@
[@nuis-line3111](https://line.me/tv/nuis-line3111)

LINEの「友だち追加」から「ID検索」で登録

「中長期計画」スタートしよう



より魅力、特徴ある大学へ



学長 平山 征夫

学生諸君、教職員、父母の皆さま明けましておめでとうございます。新たな気持ちで新年をお迎えのことと思います。本年も何とぞよろしくお願いいたします。

す。開学23年目となる昨年は、本学にとりまして有意義な1年でした。創立20周年を期に悲願でした2学部への移行を達成しましたが、漸次定着をしており、本学の新しい歴史は順調に歩み出したと言っ

「知」の資産生かし改革

揮する大学

⑥未来を創る大学としての活動

しかし、大学を取り巻く環境は「2018年問題」をはじめ一段と厳しくなっています。少子化や地方経済の低迷が進むといった客観情勢だけではなく、文科省の政策が同省の基準による大学改革評価主義となり、つれて予算配分もそれに比例しています。さらなる改革として高大接続のほか、実質専門学校等の大学転換である「実践的教育を施す新たな高等教育機関」の設立も現実化しつつあり、強烈なライバルが登場し

ました。また、その前提としての本学の未来の在り方・目的を定めた「中長期計画」を策定しました。ここでは「若者と新潟の未来を創る大学」および「地域になくはならない大学」を謳うと同時に、次の6つの基本戦略を打ち出しました。

- ①国際化・情報化に応える人材育成の拠点となる大学
- ②幅広い人間教育を実践する大学
- ③地域の未来を切り拓き地域に貢献する大学
- ④国際化を進化させる大学
- ⑤多様な活動を通じ新たな機能を発

てきます。専門学校の多い本県では、大きな影響が懸念されています。本学が私立大学として自らの建学の理念に基づき、より魅力と特徴のある大学創りに励むことが求められています。それには昨年定めた「中長期計画」を本年本格スタートさせることが何より肝心です。本学がこの地で「知」の中核的存在として、23年の実績を踏まえてさらなる「なくてはならない存在」になるには、上記の基本戦略をどう具体化するにかかっています。皆さんからも改めて大学が持っている「知」の資産を生かすとともに、具体的実践活動に結びつけていただきたいと思います。

昨年の私大協総会で「私立大学、とりわけ地方の私大の必要性をどう訴えてゆくか」が議論となりました。私は以前にも触れましたが、地域の私大は道路、病院などと同様、地域に必要な「共通社会資本」だと思っています。なぜなら「地域が必要とする人材は地域で育てる」という社会資本としての役割が大学にあるからです。本学がその役割を真に果たす共通社会資本にふさわしい大学になるため、本年さらなる改革に取り組む所存ですので、皆さん一緒に力を合わせて進みましょう。

湧源

編集後記に代えて

入試・広報委員長 安藤 潤

新年あけましておめでとうございます。楽しい年末年始を過ごしたろう4年生も、本号が出るころには卒業発表会や卒論口述試験を控えて緊張感がピークに達していることだろう。

本学のカリキュラムの特徴の一つとして、卒業論文が必修科目になっていることが挙げられる。学生から県内他大学では必修化されていないのになぜ本学だけ卒論が必修になっているのかと聞かれることがよくある。卒論が必修かどうかは学部によることもある。実際、私の卒業した学部は必修ではなく、ゼミ指導教員に任された「ゼミ論」だった。卒論が必修化されている理由は学生生活4年間の集大成だからとか学生を遊ばせないためだとかいろいろあるとは思う。大学院に進学して研究者を目指すのはごく一部にすぎない。それでも卒論は書いてほしいと思う。

私の卒論は研究室にある。今となつては貴重な原稿用紙に手書きの卒論だ。ボールペン書きなので間違えると修正液を塗って乾くまで待ち、書き直していたあのころが懐かしい。それだけに今読み返してもあのときの情景が今もよみがえる。提出日の朝に書き上げ、文房具屋さんに製本をお願いし、炬燵に入ってほつとしたのもつかの間。なぜか第2章がそっくりそのまま抜け落ちて炬燵の下に。顔を引きつらそうに再度持つて行ったあの時からすでに四半世紀。

時代は変わって卒論は言うまでもなくパソコン書きだ。見ようによつては一見白い紙に規格化された黒い文字の集まりにしか見えないでもない。しかし、卒業生が久しぶりに読み返したとき、その目に映るのは本当にそんな個性の感じられない文字の集まりだろうか。そこにゼミ・研究室での飲み会や合宿、提出期限まで卒論執筆に苦しんだ自分の姿、そんないろいろなものが色鮮やかによみがえってくると思えば、指導した教員としてこれほどうれしいことはない。

それがいつになるのかはわからないし、読み返すことがあるのかそれ自体もわからないが、卒業生の皆さんにはぜひ自分の卒論を読み返してもらいたい。そのとき皆さんの目には何が映るだろうか。それを聞くのを楽しみにこれからも指導していきたいと思う。

中国「一帯一路」戦略とは

今年度の国際理解講演会は11月26日、「変化するアジア経済」をテーマに、「週刊東洋経済」編集長の西村豪太氏をお招きし、本学新潟中央キャンパス9階講堂で開催しました。西村氏による講演（タイトル「中国の『一帯一路』戦略と日本」）の後は、在新潟ロシア連邦総領事館の総領事であるヤーセネフ・セルゲイ氏と中華人民共和国駐新潟総領事館の経済商務領事である李璋発氏より、各国における経済連携の現状を報告していただきました。また、残念ながら公務により急きよ欠席となった駐新潟大韓民国総領事館の領事である李正雨氏からも、韓国におけるFTA（自由貿易協定）政策に関する資料を提出していただきました。

TPP…多国間協定から二国間協定 今後は「新たな経済圏」へ



第2部は、本学国際交流委員長、佐々木寛教授の司会進行で在新潟ロシア連邦総領事館総領事 ヤーセネフ・セルゲイ氏、中華人民共和国駐新潟総領事館経済商務領事 李璋発氏と第1部の講師、西村豪太氏がアジア経済の連携について話しました

線に大きな経済圏をつくらうという現代版シルクロード構想を指します。西村氏は、中国がこの構想を進める理由として、①TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）を含めた米国のアジア太平洋戦略への対抗、②国有企業が抱える膨大な過剰生産能力の解消、③人民元の国際化戦略の3点があったと指摘しました。

しかし、今年11月に実施されたアメリカ大統領選の結果を受けて、中国も米国も今後はTPP等の多国間協定ではなく、二国間協定に傾く可能性が高く、日本では日中韓FTAをベースにASEAN10カ国などを組み込んだRCEP（東アジア地域包括的経済連携）が、TPP以上に争点化する可能性が高いと述べました。

また、貿易拡大だけでなく、AIIIB（アジアインフラ投資銀行）への出資などから形成されるアジア経済に対する影響力が、アジア

におけるパワーバランスそのものを大きく左右すると述べた上で、アジアを中心とした新たな経済圏に注目することによって、今後の

日本経済をも読み解くことができるかと話されました。
（国際交流委員
国際文化学科
講師 佐藤若菜）

野菜、果物のハリとツヤ 鮮度を「明るさ」で認識



電子版に掲載されました。実験では、京都大学霊長類研究所のチンパンジー3頭に対して、普段食べているキャベツの葉を用意し、時間とともに劣化していく様子を10枚のカラー写真で撮影しました。そのうちの2枚の写真を見せて、新鮮な方を選ばせたと、正答率は84%でした。さらに、

写真を白黒に変えて、明るさのみを手がかりに識別できるかを調べたところ、正答率は81%となり、カラーの場合とほとんど変わりませんでした。チンパンジーは、色の手がかりがなくても、明るさを手がかりにしても、ハリやツヤなどの鮮度の違いを見分けることがわかりました。

近年の研究から、人間も鮮度の違いを判断する際に、色覚だけでなく明るさを利用していることが確認されています。一方で、人間以外の動物が、見た目で

伊村准教授ら研究発表

チンパンジーが、野菜の葉や果物のハリ、ツヤなど鮮度の違いを「明るさ」を手がかりに区別することを、情報文化学部の伊村知子准教授らの研究グループが確認しました。これまで、ヒトやチンパンジーを含む霊長類の食物選択には色覚が重要と考えられていましたが、この研究で初めて、チンパンジーは、輝度（明る



キャベツの葉の写真から、新鮮な方を選んで指さすチンパンジー（京都大学霊長類研究所提供）

の評価をしているかどうかについて調べた例はなく、人間の質感認識がどのように進化してきたか、などの解明につながる研究成果といえます。これらの成果は、BSN新潟放送「BSNNEWS ゆうなび」(2016年10月6日放送)、新潟日報(2016年10月13日朝刊)でも紹介されました。

高橋佳那子さん(中級)優勝



優勝の高橋佳那子さん(中央)と3位の川田翔子さん(左)、高山香織さん(右)

川田さん(上級)、高山さん(初級)3位
6年連続の複数入賞

第16回新潟・ロシア語スピーチコンテストが11月5日、新潟市中央区のクロスバルいがたで開催され、国際文化学科3年生の高橋佳那子さんが入門B(中級)の部で優勝しました。また、最難関である一般(上級)の部で情報文化学科4年生の川田翔子さんが3位入賞、さらに入門A(初級)の部でも国際文化学科2年生の高山香織さんが3位に入賞しました。

(上級)の部の入賞は3年連続です。入門Bの課題は3分以内のフリースピーチ。高橋さんは「新潟県の県花について」という題で、新潟とチューリップの関わりを洗練された正確なロシア語で表現し、すべての質問に的確に答えました。一般の部の課題は5分以内のフリースピーチ。川田さんは「漫画の魅力」という題で、人気漫画「NARUTO」を題材に、漫画を介した日本とロシアの関わりをしっかりと表現しました。

入門Aの部の課題は小文「Kotomam? (どなたですか)」の暗唱。2年生の高山さんは完全な暗唱でした。

3) 委員・社会的活動・記事・その他

伊村 知子(情報システム学科・准教授)

・(2016年11月5日)「チンパンジーからヒトの心を探る」日本心理学会公開シンポジウム 高校生のための心理学講座(新潟大学)

内田 亨(情報システム学科・教授)

・(2016年4月1日より継続～2018年3月31日) 日本経営品質学会 理事
・(2016年6月2日より継続～2017年5月31日) 新潟県生産性本部 常任理事
・(2016年9月17日) 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+) 国際交流WGオープンフォーラム パネラー「フランスで住みよいまちヨシ」(新潟大学駅南キャンパスときめいと)
・(2016年10月1日より継続～2018年9月30日) NOSAI新潟 コンプライアンス委員

上西園 武良(情報システム学科・教授)

・(2016年10月27日～28日) 燕三条ものづくりメッセでの展示(燕三条地場産業振興センター)

藤田 美幸(情報システム学科・准教授)

・(2016年8月31日) 戸川和志(情報文化学部情報システム学科4年) 平原龍也、佐藤希、白倉要(情報文化学部情報システム学科3年) が新潟市南区主催「農産物をつかったビジネスプランコンテストin南区」で受賞。
・(2016年9月24日、11月3日) 研究室を中心に新潟市中心市街地活性化事業「ふるまちクエスト」開催。

近山研究室の山科棕さん(情報システム学科4年)の食品分析に関する研究成果が査読付き論文誌「国際誌」に掲載されました(E. Chikayama, R. Yamashina, et al., Me-tabolites 6, 36 (2016))。論文は、同研究室と特定国立研究開発法人・理化学研究所環境代謝分析研究チームの共同研究成果をまとめたものです。

近山研究室・山科棕さん

理化学研究所と共同

論文誌に成果掲載

ウェブツール開発



山科さんが開発したウェブツールFoodPro。

ログラミング言語によるウェブツール開発」に携わりました。山科さんは、本学を昨年退官された槻木公一先生の「専門演

活用しました。本学の授業が実際の研究開発に役立った実例でした。山科さんは夏休みと春休みの

約3カ月、横浜の理化学研究所に研修生として滞在。昨夏は京都市で開かれた国際会議で研究成果を英語で発表しました。これらの成果を私が英語の査読付き論文にまとめて発表しました。

この研究は、食品分析に最先端解析技術を応用するもの。農研機構食品総合研究所(つくば市)を拠点に国私立大学、研究

参加し、山科さんは3年生前期から卒業研究テーマとして、理化学研究所環境代謝分析研究チームに加わり、「食品NMRスペクトルデータベースの整備とプ

習(情報)」授業でウェブツールの開発を学び、先生が開発したリレーショナルデータベース、プログラミング言語、ウェブサーバーUSB教材を開発に

た。山科さんは共著者として、第一著者と同等の扱いでの出版となりました。

(情報システム学科)

准教授 近山英輔

- ・(2016年9月18日) Remy Magnier-Watanabe, Philippe Orsini, Toru Uchida, Caroline Benton "Job Characteristics and Well-Being: The Mediating Role of Job Satisfaction" 国際戦略経営研究学会第9回全国大会(青山学院大学)
- ・(2016年11月19日) 「組織における社員の幸福」日本経営品質学会2016年度秋季研究発表大会(経営研究所)

上西園 武良(情報システム学科・教授)

- ・(2016年10月15日) 野口真(情報文化学部情報システム学科4年) 「キーボードのタイピングミス低減に関する研究(第4報)」日本人間工学会 東海支部2016研究大会(名古屋市立大学)
- ・(2016年10月15日) 藤田郁弥(情報文化学部情報システム学科4年) 「キーボードのタイピングミス低減に関する研究(第5報)」日本人間工学会 東海支部2016研究大会(名古屋市立大学)

佐々木 桐子(情報システム学科・准教授)

- ・(2016年11月12日) 下村悠也(情報文化学部情報システム学科4年) 「道路交通における速度抑制方法の新提案」情報システム学会(富山国際会議場)

藤田 美幸(情報システム学科・准教授)

- ・(2016年10月7日) 「新潟県のヘルスケアビジネスの可能性についてースポーツ・健康・予防医療ー」事業創造大学院同窓会 第1回ビジネスセミナー(事業創造大学院大学)
- ・(2016年10月20日～22日) MASAYOSHI FUKUSHIMA, DOUGLAS SCHUTZ, MIYUKI FUJITA "THE NEED FOR SPEED FOR INNOVATION IN GLOBAL ORGANIZATIONS" Asia Pacific Conference on Information Management 2016 (Hanoi, Vietnam)

吉澤 文寿(国際文化学科・教授)

- ・(2016年10月14日～16日) "The Problem Is NOT Settled — The Japan-ROK Basic Treaty and the Issue of 'Forced Labor'" The 65th MCAA(Midwest Conference on Asian Affairs) Annual Meeting (the University of Illinois at Urbana-Champaign)

夕食会でインドネシア伝統舞踊を踊った学生たちと。左から2人目が藤田教授



太陽光・揚水発電 離島の活用、有望

情報システム学科教授 藤田 晴啓

**太陽光・揚水発電
離島の活用、有望**

インドネシアのバンドンで9月13日から15日まで開かれた「国際制御電子再生可能エネルギー通信会議」で「社会開発のための可変再生エネルギー」と題した基調講演を行い、世界の再生可能エネルギーの現状報告と、佐渡を含む再生可能エネルギー開発について発表しました。

佐渡の再生エネルギー開発について、羽茂地区に上下2連ある「ため池」2箇所を測量して太陽光と揚水ハイブリッド発電の可能性を試算。貯水量10万トン以上のため池と下流の治山ダムで揚水発電をした場合、小泊集落87戸の約半数に電力供給が可能となり、また、羽茂地区大草の個人所有の上下2連の池でも8戸弱に供給できると説明し、将来は佐渡のような離島で可変再生エネルギーの自給が有望になると報告しました。

テルコム大学にも招かれ、同様の講演を行い、世界最多の島々があるインドネシアだけに、学生たちから活発な質問を受けました。

80人が知恵絞る


昨年の北海道大学での合同ゼミを引き継ぎ、今年は本学が開催幹事校となり新潟市の隣町、南蒲田上町コミュニティセンターで9月17日と18日、合同ゼミ合宿を開きました。

北海道大、北海学園大、聖学院大、立教大、愛知県立大、関西学院大、立命館大と本学の8大学、約80人が参加、白井ゼミの3年、4年生が事務局・コオーディネーターを務めました。宿泊と食事、懇親会そして深夜に及ぶ勉強会（的な飲み会）は温かいもてなしの温泉旅館、末廣館と初音に

お世話になりました。

合同ゼミのテーマは、「2015年1月から2016年9月までのヨーロッパのテロについて、小学生にどのように伝えておくべきか」。


単純化し過ぎれば問題の本質を見失いがち。複雑な事情を複雑なまま伝えたら大事な部分が伝わりにくい。専門的な言葉ではなく、自分たちオリジナルの心を込めた、誰でもわかる言葉で、どのように語



り伝えるか。
8大学入り混
じった10ほど
のグループが
知恵を絞り感
性を交換し合
いました。

関西学院大
の市川顕先生
「欧州におけ
るテロリズム
―負の連鎖を
断ち切るに
は」、北海学園大の松尾秀哉
先生「ベルギーの今」、北海
道大の吉田徹先生「テロとは
何か？」世界を正しく名付け
るために」といった一連のシ
ョート・レクチャーは、参加
学生の知性と感性に良い影響
を与えてくれました。

（国際文化学科教授 臼井陽郎）



「キーボード誤タイピング低減」研究発表

日本人間工学会で「優秀奨励賞」

上西園研究室 野口 真 情報システム学科4年



「優秀奨励賞」を受賞した野口真さん(左)

ました。発表では伝わりづらい部分など反省点があり、1月の卒論発表会では研究内容がもっとよく伝わるように努力します。

「キーボードの誤タイ
 誤する研究第4報」で
 あるうえで、どんなミ
 誤のか、短時間でミ
 誤証しました。被験者
 実験後のミスの分類
 が大変でしたが、上
 西園先生に認めら
 れ、参加することに
 なりました。発表時
 間の12分で理解して
 もらうため、どう発
 表したらわかりやす
 いか、夏休み中、先
 生と話し合い、研究
 をまとめました。

今まで人前で発表
 する機会はほとんど
 なく、とても緊張し
 ました。しかし、私
 の番が来た時、それ
 までの練習を思い出
 し、悔いのないよう
 思い切って発表に臨
 みました。結果、研
 究発表に参加した総
 勢15組の学生・院生
 の中で「優秀奨励賞」

教員の活動（本人申告による）

1) 研究論文・図書

伊村 知子(情報システム学科・准教授)

- (2016年) "Chimpanzees can visually perceive differences in the freshness of foods.", Scientific Reports Vol6 (34685)
- (2016年) "Infant-specific gaze patterns in response to radial optic flow.", Scientific Reports Vol6 (34734)

白井 陽一郎(国際文化学科・教授)

- ・(2016年) 松尾秀哉他編「EUと連邦主義—フェデラル・ヨーロッパの行方」『連邦制の逆説? : 効果的な統治制度が』ナカニシヤ出版 (67-83頁)

區建英(國際文化學科·教授)

- ・(2016年)「丸山真男與福澤諭吉思想中的「獨立自尊」與「他者感覺」」『臺灣東亞文明研究學刊』國立臺灣大學人文社會高等研究院 13卷1号 (107-146頁)
- ・(2016年)「丸山真男與福澤諭吉思想中的「獨立自尊」與「他者感覺」」(上記論文の転載) 主編：劉岳兵『日本儒學与思想中研究』天津人民出版社 267-293頁

神長 英輔(国際文化学科・准教授)

- ・(2016年) 中村喜和他編「コンパから考える沿海州の歴史 19世紀初めから20世紀半ばまで」
『異郷に生きるVI』成文社(23-35頁)

上西園 武良(情報システム学科・教授)

- ・(2016年) 田中由美(上西園研究室卒業生)「ビニール袋の取り出し易さ向上に関する研究」
『人間生活工学』17巻2号(27-32頁)

白井 健二(情報システム学科・教授)

- ・ (2016年) "Synchronization analysis of the production process utilizing the phase-field model", International Journal of Innovative Computing, Information and Control Vol.12 No.5 (1597-1613)
- ・ (2016年) "Analysis of fluctuations in production processes using Burgers equation", International Journal of Innovative Computing, Information and Control Vol.12 No.5 (1615-1628)

近山 英輔(情報システム学科・准教授)

- ・ (2016年) "FoodPro: A Web-Based Tool for Evaluating Covariance and Correlation NMR Spectra Associated with Food Processes". *Metabolites* Vol.6 (36)

2) 学会・研究会・講演等

伊村 知子(情報システム学科・准教授)

- ・(2016年10月29日～10月30日)「購買行動において他者の評価が商品の価値評価に及ぼす影響: willingness-to-payを指標として」日本基礎心理学会(東京女子大学)

白井 陽一郎(国際文化学科・教授)

- ・(2016年10月17日)「EUの規制と政治」テクノバ「分野軸・地域軸勉強会(政治・規制)」
(帝国ホテルタワー)

内田 亨(情報システム学科・教授)

- ・(2016年9月5日)「水産養殖事業のビジネスモデル構築へ向けて：持続的に魚を食卓に上げるためには」システム創造思考法第3回研究部会発表(早稲田大学)

陸上競技部 男子400mリレー

北信越学生選手権(10月) 初優勝



「第47回北信越学生陸上競技対抗選手権大会」のリレーの様子

8月「しばたナイター陸上」でV 3選手が自己ベスト大幅更新

本学陸上競技部が10月15日、16日、福井県宮地陸上競技場で開催された「第47回北信越学生陸上競技選手権大会」に出場し、男子4×100mリレーチームⅡ第1走・海津亮太(情報システム学科4年)、2走・猪俣慧樹(同1年)、3走・斎藤拓海(同1年)、4走・佐藤拓海(同3年)が初優勝を果たしました。

予選は同オーダーで2着(41秒53)に入り決勝に進出し、決勝では予選を上回る41秒32の記録を出しました。チームは昨年、冬季トレーニングで筋力アップと体の基

礎作りに励み、坂道を利用して競走するなど練習の質を濃くして今シーズンに臨みました。

7月に新潟市陸上競技場で開かれた「第70回新潟県陸上競技選手権大会」では41秒01で2位。8月に新潟市五十公野公園陸上競技場で行われた「第6回しばたナイター陸上競技大会」は40秒98の大会記録で優勝。同じく8月に新潟市陸上競技場で行われた「第60回北陸陸上競技選手権大会」では40秒90のチームベスト記録(本学記録を大幅更新)で2位になりました。

個人の結果も、第2走猪俣10秒89、3走の斎藤10秒73、4走の佐藤10秒73と3人が自己ベストを大幅に更新、1走の海津は10秒62の今シーズンチーム最高記録を出しました。

来シーズンは、春の北信越学生陸上競技対抗選手権大会に優勝して全国大会に進むことと、学校対抗の北信越ブロック優勝、そして部員全員が自己ベストを更新できるように冬季トレーニングに励む計画です。ただ、昨年度はシーズンに移行する2月～4月にけが人が出てしまい初戦に間に合わなかったもので、一人一人が体のケアをしっかりするよう練習計画を立てていきます。

(陸上競技部主将 佐藤 拓海)

情報システム学科3年



紅翔祭ステージのイベント

10月8日と9日、第23回紅翔

模擬店、イベント昨年上回る

「紅翔祭」駆けぬけた!

祭「駆けぬける!」2日限りのCARNIVAL」が開かれました。2日間とも雨天で開催が不安でしたが、地域の皆さまや県外からのお客さまに来場いただき大変盛り上がりしました。今年度は模擬店数が増え、屋内イベント数も増えて学生の意欲向上が見られました。

初日は西区の大農業祭と合同開催でステージ・イベントが祭を盛り上げ、JAの方々や地域の方々による名産の赤塚ダイコ

ンほか人気の野菜販売に長い行列ができるなど、大勢のお客さまにご来場いただきました。企画からお世話になったJA、新潟市西区役所の皆さまには深く御礼を申し上げます。

2日目は父母会・みずき会共催の文化講演会に日本語学の研究者で言語学者の金田一秀穂氏が「日本語おもしろ塾」と題して人気テレビ番組の競演芸能人の話題など、楽しいお話を聴かせてくださいました。

初めて実行委員長を務めましたが、多くの業者、教職員の方々に協力いただき紅翔祭が成功したと実感しました。

(実行委員長 天野 健太郎)

国際文化学科2年

藤田 美幸研究室 「ふるまちクエスト」

スマホでクイズ出題 街歩き



私たち藤田美幸研究室では9月24日と11月3日、新潟中央キャンパスを拠点に、スマートフォン上の観光アプリを活用した街歩きゲーム「ふるまちクエスト」を開きました。

3～5人のチームで、スマートフォンやタブレット端末を見ながら新潟市中央区の古町通りなどを巡り歩き、クイズが出題



新潟中央キャンパスに集合した参加者たち

される名所などを撮影して得られるポイント数を競う。いわばチーム対抗の「デジタルオリエンタリング」で、地域の人たちの交流や、古町地区の活性化も兼ねたイベント。地区商店街の新潟古町まちづくり株式会社や、本学卒業生が起業したプ

ラスクリエティブの皆さんと協力しました。

地域案内「新潟City」というアプリを起動して地図上に表示されるクイズの出題地点(約30地点)を目指して古町通りを歩き、画面に現れるクイズに答えて得点すると別の出題地点へ回ります。地区内では本学マスケット「ナビット」が現れたり、仮装したスタッフの「ゲームマスター」が潜んだり、見つけると「20点獲得」など特典付きの指令が送られます。

イベントには、市内外から外国の方も含めて10代から50代まで多くの方が参加。「地元こんなにも良いお店があるの!」「また来てみようと思った」などの感想をいただき、古町の良さを実感してもらいました。イベントに参加して交流が深まり、新潟市や古町について知

よい機会になったようです。

(藤田美幸研究室 小林 紅輝)

情報システム学科3年

「企業懇談会」に276社、約400人

採用情報、協力を感謝



「企業、団体の皆さまにお世話になっています」とあいさつする平山征夫学長

就職支援を目的に企業と交流する平成28年度「企業懇談会」が11月16日、ANAクラウンプラザホテル新潟で開かれ、昨年より多い276社、398人の関係者と本学から理事長、学長、教職員が出席しました。講演会では「途上国から世界に通用するブランドをつくる」と24歳でベンチャー事業を立ち上げた、株式会社マザーハウス代表取締役兼チーフデザイナーの山口絵理子氏が講演しました。平山征夫学長が「多くの卒業

生が皆さまのもとで働いて、お世話になっていきます。悩みなから頑張る良い仕事をしているか日々気に掛かります。大学の学びを世のために役立て、社会づくりに力を尽くすよう願っています」とあいさつしました。

「逆境を切り拓くリーダーシップ」と題した講演会で山口氏は「小学校ではいじめられ6年間通えなかった」が、大学卒業後は大手商社のダツカ事務所で働き、夜間はバン格拉デシユの大学院に学び、「生きるのがやっとで学校に行けない子供が必死に生きる」強さを見て起業。

バン格拉デシユや、ネパール、インドネシアで、失敗や異文化交流を重ねて、麻やレザーのバッグ、絹やカシミヤのストール、宝飾のデザインと生産―販売を直結。現在のスタッフは国内外に約300人、販売店を国内に銀座など19店、台湾6店、香港3店に拡大したと紹介。「リーダーに必要なのは一番大切なものは何かを考えて人を育てること。若者は、他人と比べずに自分自身との対話が大切。失敗しても自分らしい歩みを」と話しました。

懇親会では、星野元理事長が「皆さま方のおかげで今まで19回の卒業生約5500人の8割が県内に就職し、若者の県内定住に大学も役立っています」と企業と団体に感謝し、就職指導委員長の内田亨情報文化学部教授は、インターンシップや実習で各企業にお世話になり就職内定も進んでいる現状を説明、重ねて採用協力をお願いしました。日本放送協会の鈴木仁新潟放送局長が乾杯の音頭をとり、人事担当者と教職員は、採用計画や卒業生の近況について話し合い、懇親を深めました。

学内のカメラ女子たちが、かわいい写真フリーペーパー「FINDER」Ⅱ写真Ⅱを撮影・編集して学生会館に設置、紅翔祭で配布しました。

カメラ女子が撮影～編集

「FINDER」誕生

学生、キャンパスの魅力発信

（A5サイズ、16ページ）を作ったのは男女5人メンバー「NUIsgpb」(gpbはgirl photograph book)。

い、という願いを小さな写真冊子に詰めました。「彼女、彼はどんな子だろう」と思ってもらえるフォトエッセーを目指します。メンバー15人が撮影し、入試・広報課のパソコンを借りて編集。印刷と製本は学生会からも助成してもらいました。

今後はホームページを作り、ツイッターなどSNSで発信する計画です。

(NUIsgpb代表

水澤美郷 国際文化学科3年



「福祉・介護・健康フェア2016」

光通信、介護ロボットが人気

社協議会の共催）が11月13日、新潟市の朱鷺メッセで開かれ、情報システム学科の近藤研究室と高木研究室が出展しました。会場には多くの企業・団体が参加してにぎわいました。

「福祉・介護・健康フェア2016」（新潟日報社・新潟県社会福祉協議会・新潟市社会福

製作して光通信を行うなど、参加型プログラムに関心が集まりました。

また23日は長岡市でも、「福祉・介護・健康フェア2016 in 長岡」をハイブ長岡で開



参加・体験型の「光通信機の製作実験」が人気だった近藤研究室の展示ブース

近藤研究室は「光受信機を作ってリモコンの光を聞いてみよう!!」、高木研究室は「秤がなくても使える栄養計算データベイス」と題してブースを設営。訪れた人はLEDで光送信機を

催し、情報システム学科の近藤研究室と河原研究室が出展。新潟会場と同様に盛り上がりました。近藤研究室は、新潟会場と同様に光通信の製作実験を行い、子どもを連れた家族来場者が大勢体験していました。

河原研究室は「介護ロボットの可能性」というテーマで、「みまもり」「ロボットセラピー」をしてくれるロボットと、VR（バーチャルリアリティ）、視覚障害の場合の見え方のシミュレーションのデモンストレーションを行ない、ロボットは子どもからお年寄りまで興味を持ってかわいがって（遊んで）もらえました。

フェアに参加して、一般の方々や福祉・介護に実際携わっている方々の感想やアドバイスが得られ、研究室の中だけでは得られないような有意義な時間となりました。

（情報システム学科講師河原和好

詩人・金時鐘氏を迎え 文化講演会

戦争と朝鮮…新潟、激動の歴史



「人はみな自分の詩を抱えて生きています。素朴な日常に向き合うことが、詩を生む原動力です」と話す金時鐘さん

詩への愛、笑みたやさず

「金時鐘文化講演会」(本学と新潟日報社の連携)が9月25日、新潟中央キャンパスで開かれ、県内、京都、大阪、東京からも訪れた約150人が聴き入りました。金時鐘さんは戦前の朝鮮に生まれ、皇国少年として育ち、戦後の新潟県四・三事件に遭遇し、密航船で神戸港に上陸、その後、在留特別許可を得て大阪市の猪飼野で教員として暮らしながら、詩を発表するようになりました。こうした来歴をもつ金さんは、金石範、李恢成、金鶴泳といった他の在日の表現者が小説という手段を選ぶなか、詩に執着しました。

代表作のひとつは『長編詩・新渇』です。朝鮮帰還事業で同胞が離れる地である新潟を題名にした本作の冒頭部は「雁木のうた」と題され、自分と朝鮮のあいだの結節点としてこの新潟の冬の風景が象徴的に使用されています。その金さんを文化講演会の講師として本学にお迎えすることができました。帰還事業には本学初代理事長、小澤辰男も関係していることもあり、激動の歴史の一コマの気配さえ感じさせる講演の題名は「詩について思うこと、考えること」となりました。

昨年刊行された金さんの『朝鮮と日本に生きる』(岩波新書)は、その雑誌連載時から話題となっていたものの、まとめて読むことによりその衝撃は大きくなります。特に四・三事件に関する記述は圧巻です。歴史の裏面でいかに多くの無辜の民が虐殺されたのか。その読後感も生々しく、そのためかこちらは緊張して金さんを迎えました。ところが、新潟空港に降り立った金さんは温厚そのものの。本学での講演も、詩という表現手段に対する情熱と信頼のもとに、とてもあたたかいものとなりました。満員の聴衆を前に、日本語で発表する詩への愛を語りながら、一方で確固たる歴史観もあわせて開陳されました。今年87歳

情報システム学科 2011年度卒業 登坂 幸太

卒業生の便り

の高齢ながら最後まで笑みをたやさず、ジョークも混ぜながら、けれども明確な意志に基づいた言葉

を紡ぎつづける金さんでした。
(国際文化学科教授 越智敏夫)

企業の情報システムを構築

在学中の指導のおかげ



私は、CEC新潟情報サービス株式会社という、情報システムの企画、設計、開発から納入、保守、運用までを一貫して請け負うSIサービスの会社で働いています。主な得意先は県内企業や官公庁などです。具体的な仕事は、まずお客さま企業が抱えている問題を知ることがスタートです。自社の課題をはつきり理解している場合のみならず、不便不満は感じていないかを改善したらよいか分からない場合もあり、お客さまと一緒に日々の業務で抱える具体的な課題を見つけていることから始まります。そして、企画、設計、開発、構築を行い、機器やシステムの導入から保守まで一貫して行います。ただモノを売って終わりではなく、お客さまと長く関わられるというところが、現在の仕事の魅力だと感じています。

営業職として入社し、早いもので5年目を迎えました。現在では文教部門に所属して学校などの教育機関へパソコンなどのICT機器販売や、文教向けのシステム提案をしています。成長する子どもたちを見るのが今の一番の楽しみです。これから社会人、営業マンとして、また父親として常に向上心を忘れず、仕事にプライベートに日々精進します。

ます。営業活動で母校の新潟国際情報大学へも訪問して、教職員の方々と一緒に仕事をさせていただく機会もあります。卒業後の方が多く大学へ来ているかもしれません。在学中、上西園研究室では、卒業研究だけでなく社会人のマナーもご指導いただき、その経験が今生きています。

平成29年度 一般入試日程

※出願期間内消印有効。

入試区分	出願期間	試験日	試験地	試験実施教科・科目	合格者発表日	入学手続期間
前期	平成29年1月5日(木)～1月20日(金)	平成29年2月2日(木)	新潟県新潟市上長岡新発田	国語 数学 外国語 2科目以上選択	平成29年2月8日(水)	平成29年2月8日(水)～2月17日(金)
大学入試センター試験利用	平成29年1月23日(月)～2月10日(金)	平成29年1月14日(土)、15日(日)の大学入試センター試験を受験していること		各学部の利用教科・科目の中から2科目以上選択	平成29年2月20日(月)	平成29年2月20日(月)～3月3日(金)
後期	平成29年2月22日(水)～3月7日(火)	平成29年3月13日(月)	新潟	国語 数学 外国語 2科目以上選択	平成29年3月16日(木)	平成29年3月16日(木)～3月23日(木)

募集学部

情報文化学部／情報システム学科
国際学部／国際文化学科

入試のポイント

一般入試(前期・後期)で第2志願制を導入!!

第1志望の学部が合格にならなかった場合には第2志望の学部で合否判定を行います。

一般入試(前期)で学費給付奨学生を採用!!

一般入試(前期)の試験結果から、成績上位者に、年間授業料の半額を給付します。奨学金試験を受ける必要も、事前に申請する必要もありません。
※進級年度ごとに審査あり。

給付額	給付対象	
年間授業料の半額	情報文化学部 情報システム学科	5番以内
	国際学部 国際文化学科	3番以内

※詳細は「平成29年度学生募集要項」または本学ウェブサイト(<http://www.nuis.ac.jp/>)でご確認ください。